

平成 2 8 年度墨田区立業平小学校経営報告書

平成 2 9 年 3 月 6 日

学 校 目 標	独 学 自 修
目 指 す 学 校 像	子どもの学びを大切にして、確かな学力を育てる学校 歴史と新しさが共存する学校 教職員が協働の姿勢で、組織的に指導・実践する学校 保護者・地域との連携を大切にする学校
目 指 す 子 供 像	・進んで学ぶ子 ・優しい子 ・元気な子
目 指 す 教 師 像	教育に対する熱意と使命感をもつ教師 豊かな人間性と思いやりのある教師 子ども一人ひとりの良さや可能性を引き出す教師 責任感と協調性を有し、互いに高めあう教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	B	・ICTを活用した授業改善を推進する。 ・習熟度別少人数指導を充実させるために、指導方法の工夫・改善を図るとともに、基礎・基本を重点とした授業改善を進める。(東京ベーシックドリルの活用)	B	B
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	・学習支援指導員による授業時の取り出し指導を実施し、個別支援の強化を図る。 ・週3回、全学年を対象に、放課後学習教室を実施する。	A	A
	学校は、子供の将来の自立に向けた教育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	・外部人材を活用し、社会で役立つという意識を育成する。 ・人間関係形成能力・情報活用能力を養う。	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	・指導教諭による模範授業や教師道場リーダーによる公開授業等を行い、校内研究を活性化していく。	A	B
	学校関係者評価委員会の意見等	学校独自の放課後学習教室とすみだ塾の実施によって、学力低位層（D層、E層）の児童が減少しつつあることは評価できる。また、教員が積極的に外部の研究会等に参加してスキルアップを図る努力は、今後も続けてほしい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について

様式 4

生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対策委員会の機動性を高める都共に、いじめ防止公開講座の充実を図る。 生活指導朝会、校内委員会、生活指導研修会の充実を図る。 	B	B
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	C	<ul style="list-style-type: none"> メディアコントロールの取組をさらに進め、基本的な生活習慣の確立に努める。 オリパラ教育、アクティブライフ研究実践校を通して、「おもてなしの心」の育成に努める。 	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 安全教育プログラムの活用を進める。 防災教育を徹底させ、子供の危機回避能力を高める。 学校情報連絡メールの活用を推進する。 	B	B
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	C	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事終了ごとにアンケートを実施し、活用する。 HP や学校便り、学校掲示板等を充実させ、双方向の情報交換に努める。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	基本的な生活習慣確立のために取り組んでいる「生活リズムカード」は親の協力も増えてきて、効果的な取組だ。(本来は、家庭のしつけの部分が大いと思うが・・・)			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針をもとに、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営連絡協議会との連携を密にする。 管理職～教務主任～主任という流れで、課題への対応を機動的に行えるようにする。 	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	「進んで学ぶ子」を重点目標とし、月目標・週目標を設定し、その定着を図る。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	C	<ul style="list-style-type: none"> 特別教室に設置された移動式プロジェクターと、各教室に設置された固定式のプロジェクターの活用を推し進める。 2クラスが学習できる、大型の教室を増設する。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	学級増（新1年生）による普通教室の不足が近い将来出てくるのが不安である。体育館でのビデオ中継が、職員室と2階教室に同時中継できるようにしたのは、今後の行事に有効活用できる。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	HP は2週間ごとに更新すると共に、学校・学年・学級だよりを定期的に発行し、情報発信を充実させる。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA 行事への教職員の参加と協力を行うと共に、学校を開く努力を継続して行っていく。 地域在住の GT や保護者等の図書 V の授業協力を推進していく。 北斎美術館やすみだ水族館等の地域の施設を活用して、地域の歴史や文化に触れる教育活動を強化していく。 	B	B

様式 4

学校関係者評価委員会の意見等	学校評価のアンケートの回収率が96%を超えているのは、親の学校に対する意識が高まってきていると評価できる。まだまだ意識の低い保護者はいるが、今後も地域・保護者との連携をさらに充実させてほしい。
----------------	--

2 平成28年度学校評価のまとめ

前年度と同じように、心の教育に対する保護者の意識に戸惑いがある。学校は、心の教育に対するさらに具体的な教育活動を工夫していってほしい。しかし、保護者の教育活動に対する意識は高まってきているので、今後も保護者・学校が情報の双方向性を高めていく事が必要だと感じる。オリパラ教育やアクティブライフ研究実践に伴ういろいろな取組は、業平小学校の特色ある教育活動として評価できる。また、スカイツリーでの英語活動（インタビュー）は、グローバル化が進展する今、時代と地域性を生かした教育活動として今後もその取組は期待できる。

以上の通り報告いたします。

墨田区立業平小学校 校長

瀬戸 英一

